

事務局長に就任するにあたって・・・熊谷道夫（新事務局長・立命館大学）

2008年4月に発起人会と設立総会を開き、バタバタと特定非営利活動法人びわ湖トラスト（以下、びわ湖トラスト）をスタートさせ、はや5年の歳月が過ぎました。その間に事務局長を務めていただいた山内陽子さん、高木順さんに厚く御礼申し上げます。お二人のおかげで、びわ湖トラストも少しずつではありますが社会に認知され、財政的にも軌道に乗りつつあります。そんな中で、私が三代目事務局長の重責を担うことになりました。これからどうやって盛り上げていくかが、大きな課題であり、設立当初からのメンバーの一人として、責任の大きさを実感しています。びわ湖トラストの活動も、最近の社会のニーズに呼応して多様化してきており、それぞれの事業における目的・手段・展開・成果について説明可能なビジネスモデルの提示が必要となってきました。

5年前に作成したびわ湖トラストの設立趣意書の中に次のような<sup>くだり</sup>件があります。

「・・・急速に進行する地球温暖化や人間活動による自然破壊から、かけがえのないびわ湖の環境を守り、その豊かな自然を健全な形で後世の人々に残すことは、私たち人類の義務であり責任であると考えます。そのためには、びわ湖に関心を持つ多くの人々や様々な組織が、びわ湖とその集水域における正確な情報や教育資源を共有し、何をなすべきかを共に考え適切な行動を起こす必要があります。

地球温暖化からびわ湖を守るには、質の高い情報公開と相互の連携が不可欠なのです。また、緊急かつ大規模な調査や修復に向けた技術開発も必要です。その時々<sup>の</sup>の財政事情や政治状況に左右されることなく、長期的に信頼性の高い調査研究をできる体制づくりが、いま求められています。

このたび、このような事態を憂慮した有志が集まり、多くの賛同者を募り、びわ湖を主とした湖沼の調査研究や環境再生を支援し、最先端の調査船や計測機器を共同運用すると共に、最新の湖沼情報を迅速に公開し、将来にわたって健全なびわ湖を保全するための環境教育や連携を行うことを目的としてNPO法人びわ湖トラストを設立することにしました。

この趣意を実現するために、びわ湖トラストは現在次のような事業を実施しています。

- (1) 船舶および湖沼調査に関すること・・・船舶および水中ロボットの運用と、それらを用いた湖沼探査の実施、湖上における各種実習や無人ソーラーボートによるレースなどの開催支援
- (2) 森林および河川に関すること・・・トチノキ保全活動の支援や琵琶湖集水域における森林や河川の保全活動
- (3) 環境教育およびネットワークに関すること・・・環境教育の実践やびわ湖にかかわるネットワークの構築
- (4) 環境保全に関すること・・・湖内および湖岸に投棄されたごみの回収や環境にかかわる講演会の開催
- (5) 交流に関すること・・・会員の集いや記念事業の開催、広報や出版事業など
- (6) 環境修復に関すること・・・びわ湖保全にかかわる環境修復事業の企画や実践

以上のような事業を幅広く展開するために、各方面からのご協力や浄財を募るとともに、外部助成金獲得に努めています。特に、今年度からは、調査船や水中ロボットの運用にかかわる基金の設立を目指しています。一口1000円で可能な限り多くの人々の参加を募ろうと思います。そして寄付していただいた方々の氏名を登録して、私たちの活動が続く限り後世の人々に残したいと思っています。

どうか今後ともよろしくご支援をたまわりますようお願い申し上げます。

2013年6月4日